

Cora Munro の死の意味

肴 倉 宏

The Meaning of Cora Munro's Death

Hiroshi Sakanakura

抄 録

自然とそれを覆う闇は、*The Last of the Mohicans* を構成する重要な要素であるだけでなく、作品のテーマを支える重要な意味をも与えられている。自然と闇は、それぞれ、善と悪を象徴的に示している。悪のため苦悩している Cora Munro は、彼女に共感してくれる人を求めている。Duncan Heyward や David Gamut は、彼女の苦悩を理解できず、彼女を絶望させてしまう。Natty Bumppo は、Cora の苦悩を理解できるけれど、彼女を悪から解放できない。メシヤ Uncas は、彼女の苦悩に共感するばかりか、自分の命を犠牲にして彼女を悪から解放する。Cora の死は、救いを得た死なのである。

キーワード：ジェームズ・フェニモア・クーパー、「モヒカン族の最後の者」、コーラ・マンロー

(1995年9月1日 受理)

Abstract

The contrast between nature and the darkness covering it constitutes both structural and thematic frames for *The Last of the Mohicans*. Nature symbolizes good while the darkness symbolizes evil. Cora Munro who suffers from evil seeks a person who takes compassion on her spiritual sufferings. Duncan Heyward and David Gamut who do not understand her sufferings drive her to despair. Although Natty Bumppo understands her sufferings, he cannot liberate her from evil. Uncas as a Messianic person not only has compassion on her but also saves her at the cost of his life. This enables Cora to obtain salvation at her death.

Keywords: James Fenimore Cooper, *The Last of the Mohicans*, Cora Munro

(Received September 1, 1995)

Leslie A. Fiedler は、*The Last of the Mohicans* (1826) の Cora Munro と Uncas の人種の特徴に注目している。彼は、Cora を白人の父と黒人の血を引く母との間に生まれた混血の娘そして Uncas をインディアンとみている。そして彼は、Cora と Uncas の人種の特徴に注目しながら、物語の第32章で描かれている Cora と Uncas の死を解釈する。Fiedler は、Cora と Uncas の死について次のように述べている。

Though Cooper's contemporaries urged him to let Cora and Uncas be joined in marriage, his horror of miscegenation led him to forbid even the not-quite white offspring of one unnatural marriage to enter into another alliance that crossed race lines.⁽¹⁾

Fiedler は、Cora と Uncas の死が民族間結婚に対する Cooper の嫌悪感を表していると解釈している。

しかし、Cora Munro を闇に覆われた舞台の中で捉え直してみるとどうなるであろうか。Cora Munro を闇に覆われた舞台の中で捉え直してみると、そこには象徴的な意味を与えられた新しい人間像が浮かび上がってくるように思えるのである。そして Cora の死は、象徴的な新しい意味を帯びてくるように思えるのである。Cora Munro の死の意味を考える上で *The Last of the Mohicans* の最初の3章が重要な部分となっているので、最初の3章に注目しながら述べていくこととする。

Cooper は、最初の3章で Cora Munro に与えた意味を明らかにするために必要な準備をしている。まず重要なのは、物語の舞台を設定することである。雄大な自然が読者の眼前に展開する。Cooper は、第1章の冒頭で

自然との戦いが敵対するもの同士の戦いに先立つと述べている。続いて、Cooper は、対決する英・仏両軍の大部隊が広大な森林に飲み込まれている様子を描いて “the forest. . . appeared to swallow up the living mass which had slowly entered its bosom.” (15) という。⁽²⁾ 敵・味方両軍を飲み込んでしまう自然の広大さが強調されているのである。

Cooper は、自然の物理的な広さを強調するだけでない。彼は、自然が象徴的な意味も与えられていることを示そうとする。Howard Mumford Jones は、Cooper のパノラマ的な自然描写が Hudson River School に属すると言われている画家たちの自然描写と共通していることを指摘した上で、両者が描こうとしたことは、“the grandeur of God working in the universe”⁽³⁾ であると述べている。Cooper は、神が自然を通して自らを啓示するということを示そうとしたのだ。従って、Cooper の描く自然は、それを見る者の心の中に “the awe or humility”⁽⁴⁾ をもたらすものなのだ。Cooper の描く舞台を構成する自然は、宗教的な意味を持つ信仰の対象とされるものなのである。

神の啓示としての Cooper の自然は、同時に作品の舞台を構成するもう一つの重要な要素である死と闇の覆うところでもある。それは、英・仏両軍が植民地支配の覇を競いあって死闘を繰り広げている “the bloody arena” (12) でもあるのだ。そして、死体が累々と続く森林地帯は、闇に包まれている。Cooper は、森林地帯を “an impervious boundary of forest” (11) や “the interminable forests” (13) と描き、森の中は光を通さず昼なお薄暗いという。Cooper の作品には、物語が夕方から始まって夜へと進むものが多い。*The Last of the Mohicans* でも冒頭

の残照がすぐさま夜の闇にかき消されてしまうことで、森の中はより一層暗さを増す。この点について、Thomas Philbrick は、“almost always Cooper’s protagonists are hemmed in by darkness, mist, or the cover.”⁽⁵⁾ と述べている。闇に包まれ死体の転がる森は、まるで墓場のような不気味な様子をしているのである。

Cooper は、死臭を漂わす闇を一人のインディアンと結び付けて描いている。読者は、このインディアンの名前が Magua であると知らされるのだが、彼は物語が始まるとすぐに大自然の舞台上に登場するのである。夕暮れに Edward 砦に “the unwelcome tidings” (17) をもって現れたこのインディアンは、これからすぐに訪れる不吉な闇の前触れなのである。Cooper は、この男と闇の結びつきを強調する。この男の表情は、闇のように暗い。そればかりか、Magua の表情の暗さは、見るものにただならぬ嫌悪感すら与えている。Cooper は、彼の表情を次のように描いている。

The colours of the war-paint had blended in dark confusion about his fierce countenance, and rendered his swarthy lineaments still more savage and repulsive, than if art had attempted an effect. (18)

Cooper は、Magua の暗さが顔にぬった絵の具の効果だけによるものではないという。こうして、Cooper は、Magua の表情に浮かぶ暗さがこの男の本質に根ざしていることを暗示している。

Cooper は、物語の進行につれて Magua の本質を読者に明らかにする。そして、彼は舞台を包む闇の性質を明らかにしてゆくのである。Magua は、倫理的に墮落したインディ

アンとして描かれている。彼は、白人と接触し “the fire-water” (102) を飲むことを覚え、“a rascal” (102) になり下がったのだ。文明と接触し宗教的な意味を与えられている自然との関係を失ったことが、彼の墮落の原因なのである。やがて、Magua は、大虐殺を引き起こした首謀者として読者の前に現れる。第17章の William Henry 砦の虐殺の場面は、イギリス軍の将兵とともに婦人や子供までがインディアンに殺された歴史的に有名な事件である。Cooper は、この事件と Huron 族を結びつける。Huron 族が大量殺戮を行ったのだと言う。そして、Cooper の Magua は、Huron 族を操って彼らにイギリス軍の将兵と婦人や子供を襲撃させ虐殺させたのである。森林地帯に転がる死体は、血に飢えた Magua の暗躍の結果なのである。Magua は、“the dusky savage the Prince of Darkness, brooding on his own fancied wrongs, and plotting evil” (284) なのである。Magua は、悪の化身なのだ。大自然という舞台は、倫理的な腐敗を隠蔽し悪の跳梁を許す象徴的な意味を帯びた闇に覆われているのである。

Cooper は、まず初めに物語の舞台を設定した。宗教的な意味が与えられた自然は、背後におしやられその表面を倫理的腐敗を隠す闇が覆っている。Magua が君臨する舞台は、James Franklin Beard がいうように “his [man’s] fallen state”⁽⁶⁾ なのである。こうして、Cooper は、これから闇に覆われた舞台上で起こる事柄にまつわる問題の中心が悪の認識に関するものであることを暗示するのである。

Cora Munro が倫理的腐敗を隠し悪の跳梁を許す闇に覆われた舞台上に登場する。彼女は、妹の Alice Munro と一緒に Edward 砦

から父親のいる William Henry 砦までいこうとしているのだ。彼女たちが Edward 砦を出発して間もなく、腰にトーマホークを下げ戦闘用の絵の具を顔に塗った Magua が彼女たちの道案内として現れる。Cora は、暗い顔をした Magua を見ると “an indescribable look of pity, admiration and horror” (19) を浮かべている。彼女は、Magua に憐れみと同時に戦慄をも覚えている。彼女は、Magua に複雑な感情を表している。

Magua に示した Cora の複雑な反応は、妹の Alice の反応と対照されている。Alice は、トーマホークをもち獯猛な表情の Magua を見ると “I like him not.” (20) という。彼女は、インディアンの Magua に嫌悪感を表している。Alice は、Cora と違って Magua に憐れみを示さない。嫌悪感を露わにする Alice に Cora は、“Should we distrust the man, because his manners are not our manners, and that his skin is dark!” (21) という。Cora は、文化的な違いや人種的な違いで Magua を判断するべきではないと Alice を諫めているのである。Alice に与えた Cora の忠告は、Cora が表面的な特徴にとらわれず本質を捉えて判断できる鋭い洞察力を備えた人物であることを示している。Cora が Magua に示した憐れみと戦慄の入り交じった反応は、彼女が Magua を悪の化身と見抜いていることを暗示しているのである。

Cora の Magua に対する姿勢は、Cora と Magua の対話を通してさらに描かれている。かつて Munro から激しい鞭打ちの刑を受けた Magua は、Munro に復讐しようと計画している。彼は、直接危害を加えるのではなく間接的に Munro を苦しめて復讐しようとする。Magua は、Munro の娘 Cora を誘拐し奴隷のように働かせることで Munro の心

を蹂躪しようとするのだ。Magua は、この計画を Cora に次のように話す。

When the blows scorched the back of the Huron, he would know where to find a woman to feel the smart. The daughter of Munro would draw his water, hoe his corn, and cook his venison. The body of the grey-head would sleep among his cannon, but his heart would lie within reach of the knife of le Subtil. (105)

Magua は、Cora を虜にしておくことで Munro をいつでも殺せると “in its tones of deepest malignancy” (105) で言うのである。Magua の冷酷な復讐計画をきかされた Cora は、Magua に向かって “Monster! well dost thou deserve thy treacherous name! . . . None but a fiend could meditate such a vengeance!” (105) と思わず叫ぶのである。彼女は、Magua を計り知れないほどの倫理的腐敗と破壊のエネルギーを内蔵した邪悪な存在と見るのである。彼女は、Magua を悪の化身と認識するのである。

Cora は、Magua を悪の化身と認識するだけではない。Magua に対する認識は、Cora の自己認識をも深めさせている。Cora は、“The tresses of this lady were shining and black, like the plumage of the raven.” (19) と描かれている。彼女の黒髪は、彼女が白人の父 Munro と黒人の血を引く母との間に生まれた混血の娘であることを示している。しかし、彼女の黒髪は、人種的特徴を表しているだけではない。それは、象徴的な意味も与えられているのである。彼女の黒髪は、Magua の暗さに象徴的に示された悪を生まれながらに持っていることを暗示している。自分について語る Cora の言葉に注目してみ

る。Cora は自分と Alice を比べて次のように話す。

That I cannot see the sunny side of the picture of life, like this artless but ardent enthusiast. . . is the penalty of experience, and perhaps, the misfortune of my nature. (150)

Cora は、人生の暗さしか見えないのは生まれながらの不幸によるものだという。彼女は人間性の拭い去り得ない一部として悪を生まれながらに持っていることを告白しているのだ。Magua を悪の化身と認識する Cora は、自分も Magua と同質の悪に触まれた存在であることを自覚しているのである。

Cora は、悪の化身 Magua に憐れみと戦慄を同時に覚えていた。彼女は、Magua と同質の悪を持つことで彼に憐れみを覚えるとともに計り知れない倫理的腐敗と破壊のエネルギーを内蔵している Magua に戦慄を覚えている。しかし、彼女の複雑な反応は、Magua に対して向けられているだけではない。それは、Cora の自分自身に対する反応でもあるのである。彼女は、悪の化身 Magua と同質の悪に染まっている自分の姿を憐れむと同時に彼と同じ悪に捉えられている自分のおぞましさに怯えているのである。Cora は、Magua を悪の化身と認識するだけでなく自分も Magua と同質の悪を人間性の一部としていることを自覚しているのである。

悪の化身 Magua は、自分のうちにある悪を自覚している Cora に親近感を覚えるのである。彼は、Cora の黒髪に彼と同質の悪を嗅ぎつけている。実際、彼は、Cora に話しかけるとき、“laying his hand firmly upon her arm” (102) と描写されているように親近感を表している。Cora に親しみを覚える Magua は、今までだれにも語らなかつた自

分の過去を Cora にだけ話すのである。彼は、自分の過去を次のように話す。

Magua was born a chief and a warrior among the red Hurons of the lakes; he saw the suns of twenty summers make the snows of twenty winters run off in the streams, before he saw a pale-face; and he was happy! Then his Canada fathers came into the woods, and taught him to drink the fire-water, and he became a rascal. The Hurons drove him from the graves of his fathers, as they would chase the hunted buffalo. He ran down the shores of the lakes, and followed their outlet to the ‘city of cannon.’ There he hunted and fished, till the people chased him again through the woods into the arms of his enemies. The chief, who was born a Huron, was at last a warrior among the Mohawks! (102)

Magua は、Huron 族の族長の地位を追われた屈辱や部族の間を転々と渡り歩かねばならなかつた孤独を話すのだ。Cora に親近感を抱いている Magua は、彼の辛い過去を語ることで Cora の同情を得ようとするのである。しかし、Magua に憐れみだけでなく戦慄をも覚えている Cora は、Magua の期待している同情を示そうとしないのである。

途端に、Magua の Cora に対する態度は、ガラリと変わるのである。Magua の表情からそれまで示していた親近感は消え、一転して憎しみと敵意が彼の心を捉えるのだ。すでに述べたことだが、Magua は、Cora を誘拐し奴隷のように働かせ、そしてそうすることで、彼は、Munro に恨みを晴らそうとするの

である。彼の復讐計画は、Cora と Munro をともに苦しめ彼らの人間性を破壊しようとする事を目的にしているのである。彼の復讐計画は、悪の化身 Magua の計り知れないほどの倫理的腐敗と破壊のエネルギーを露わにしたものなのである。

悪の化身 Magua は、復讐計画を実行するために Cora の妹 Alice を利用するのである。妹の Alice は、Cora と対照的に “her dazzling complexion, fair golden hair, and bright blue eyes” (18) をした娘なのである。彼女は、Cora と違って白人の両親の間に生まれた娘なのである。彼女の容貌も、Cora の場合と同じように、象徴的な意味が与えられている。Alice は、純真無垢なのである。彼女は、悪を知らないのである。このような Alice は、William Henry 砦の陥落直後に Magua に唆された Huron 族が退却する将兵や婦人そして子供に襲いかかり略奪と虐殺をほしきままにする凄惨な光景を目の当たりにして気を失ってしまうのである。Magua は、気絶している Alice を脇に抱え暗い森に逃げ込むのである。彼は、Alice を連れ去ることで Cora をおびきよせられると計算しているのである。実際、Cora は、Magua の計算通り暗い森に引きずりこまれてしまうのである。Magua は、Alice をおとりにして Cora を自分の虜にしてしまうのである。悪を知らぬ Alice も悪に蝕まれていることを自覚している Cora もともに悪の化身 Magua に捕らえられ連れ去られる場面を描く Cooper は、圧倒的な悪の力の前にあらがひようもなくねじ伏せられてしまう人間の無力さを言いたかったのであろう。Cora は、悪の化身 Magua の圧倒的な力で押さえ込まれ人間性をその内側から食い荒らされているのである。Cora は、悪にとらえられ人間性を蝕ま

れ絶望の淵にいる人物なのである。

悪に蝕まれ絶望の淵にいる Cora は、絶望感を理解し彼女の苦悩を共感してくれる人を探し求めているのである。彼女は、William Henry 砦まで Cora と Alice を護衛する任務を与えられている Duncan Heyward が彼女の絶望感を理解してくれることを期待するのである。Duncan が献身的に Cora と Alice を道中の危険から守ろうとすることを見て、Cora は期待を膨らませるのである。実際、彼女は、旅の途中で、“Remember, Duncan, how necessary your safety is to our own.” (67) と語りかけ Duncan を愛していることを示すのである。彼女の愛の告白は、Duncan が Cora のよき理解者であって欲しいという願いを表したものである。しかし、Cora の愛の告白を聞いている Duncan は、“suffering his unconscious eyes to wander to the youthful form of the silent Alice” (68) と描かれているように、知らず知らずに Cora より Alice に引きつけられているのだ。Duncan は、Cora のよき理解者であるどころか彼女に深い痛手を追わせてしまうのである。

Cora に対する Duncan の無意識のしぐさは、彼女に対する Duncan の偏見に関係している。南部出身の Duncan は、黒人に偏見を抱いている。Duncan と Munro の対話に注目してみる。Munro は、Duncan が Cora を拒んだのは彼が人種偏見を持っているからではないかと問いつめる。Duncan は、Munro の詰問に “Heaven protect me from a prejudice so unworthy of my reason!” (159) と答える。けれども、Cooper は、“at the same time conscious of such a feeling, and that as deeply rooted as if it had been engrafted in his nature” (159) と描き、読者に

Duncan の心の中をかいまみさせてくれる。Duncan は、口で言うのとは裏腹に黒人に対して偏見を抱いているのである。このような Duncan は、Cora の黒髪に人種的特徴を読み取るものの彼女の黒髪に象徴的な意味を読み取ることができないのである。Duncan は、悪に蝕まれ絶望の淵にいる Cora を理解することができないのである。Cora は、Duncan に寄せた期待がかなえられずより一層絶望感を深めてしまうのである。

悪に蝕まれ絶望の淵にいる Cora は、次に、キリスト教の伝道者 David Gamut が彼女の苦悩を共感し慰めを与えてくれることを期待するのである。彼は、キリスト教の伝道のため William Henry 砦まで Cora や Alice と危険に満ちた旅を共にしてきた同労者なのである。このような David に Cora は、強い期待を抱くのである。実際、Cora は、William Henry 砦の陥落直後に David の歌っている賛美歌が聞こえてくると “Listen; chance already sent us a friend when he is most needed.” (172) といって期待を表している。しかし、David は、Huron 族が略奪や虐殺を繰り返し暴虐の限りを尽くしているありさまを見ると、“it is the jubilee of the devils, and this is not a meet place for christians to tarry in. Let us up ad fly!” (177) と Cora に提案する。彼は、倫理的に腐敗堕落しているその場に留まりその場で悪に苦しむものに理解を示し共感する姿勢を示すどころか虐殺の現場から逃げようとしている。さらに、彼は、気を失って倒れている Alice のことも忘れていた。David は、じぶんの身の安全だけを考えているのである。Cora は、David の提案を聞いて、“save thyself. To me thou canst not be of further use.” (177) というのである。Cora は、自分の身の安全だけを考

えている David に期待を裏切られ失望を禁じ得ないのである。

David は、Cora を失望させるだけではない。彼は、皮肉にも、悪の化身 Magua に Cora と妹の Alice を引き渡す役割まで果たしているのである。賛美歌教師である David は、Huron 族が暴虐の限りを尽くしている最中に旧約聖書のダビデのことを思い出すのだ。彼は、ダビデがサウル王にとりついた悪霊を取り除いたように Huron 族にとりついている悪霊を賛美歌を歌うことで鎮めることができるのである。実際、彼は、次のようにいう。

If the Jewish boy might tame the evil spirit of Saul, by the sound of his harp, and the words of sacred song, it may not amiss. . .to try the potency of music here. (177)

David は、旧約聖書のダビデに倣って大声で賛美歌を歌うのである。しかし、悪霊を鎮めようとする彼の意図とは、全く逆の結果を生んでしまうのである。彼の歌う賛美歌は、悪の化身 Magua に Cora と Alice の居場所を教える目印になるのである。Magua は、David の賛美歌を聞きつけてやってきて Alice と Cora を連れ去るのである。David の賛美歌は、悪霊を鎮めるどころか悪の化身 Magua を呼び込み彼に Munro 姉妹を連れ去られるきっかけを与えているのである。David の賛美歌は、より一層 Cora の絶望感を深めてしまうのである。

Duncan は、Cora の黒髪に象徴的な意味を読み取れず彼女の人種的特徴だけを見て彼女を見下していた。David は、自分の身の安全だけを考えている。Duncan も David も Cora の絶望感を理解できなかった。しかし、Cora を取り巻く人物は、彼女の絶望と苦悩

に無理解な人物たちばかりではない。悪に蝕まれ絶望の淵にいる Cora を理解し彼女に共感できる人物もいるのである。

Cora の苦悩を理解できる人物の一人は、Natty Bumpo である。Natty Bumpo は、眼光鋭い男として描かれている。Cooper は、彼の特徴を次のように描写している。

The eye of the hunter, or scout. . . was small, quick, keen, and restless, roving, while he spoke, on every side of him, as if in quest of game, or distrusting the sudden approach of some lurking enemy. (30)

Natty Bumpo の目は、彼の職業上の特徴を示しているだけではない。それは、象徴的な意味も与えられているのだ。彼の目は、倫理的腐敗を隠し悪の跳梁を許す闇の中で善・悪を識別できる洞察力をもっていることを示している。実際、彼は、闇に覆われた森の中で Magua を一目見ただけで “I knew he was one of the cheats as soon as I laid eyes on him!” (39) という。彼は、一目見ただけで Magua を悪の化身と見抜いているのだ。悪を見抜くこの様な洞察力をもつ Natty Bumpo は、Cora の黒髪を見てそれに与えられている象徴的な意味をすぐに読み取るのである。彼は、Cora の黒髪の背後に悪の化身 Magua の黒い姿を認めるのである。彼は、悪の化身 Magua の圧倒的な力に組み伏せられ人間性をその内側から荒廃させられている Cora の絶望感と苦悩を理解できるのである。実際、彼は、Cora に話すとき、“an affectionate shake of hand” (79) と描かれているように愛情を込めて Cora の手を取り語りかけている。Cora は、悪の跳梁跋扈する暗い森の中で彼女を理解してくれる人物に初めて会ったのである。

Natty Bumpo は、Cora の苦悩に共感するだけではない。彼は、悪の化身 Magua から Cora を取り戻そうとする。彼は、Cora を連れ去った Magua の行方を残された足跡を頼りに捜し当て Huron 族の集落まで追いかけてゆく。そして、彼は、自分の命と引換に Cora を解放するように Magua に提案するのである。彼は、“release the woman. I am your prisoner.” (315) と Magua に提案する。しかし、Magua は、Natty Bumpo の提案を拒否するのだ。Natty Bumpo と Magua のやりとりを近くで聞いている Cora は、Natty Bumpo に “generous hunter! from my soul I thank you. Your offer is vain, neither could it be accepted.” (315) というのである。Cora は、彼女の絶望感を理解し苦悩を共感する Natty Bumpo に心底感謝している。しかし、彼女は、彼女を悪から解放することは Natty Bumpo の力の限界を越えていると述べているのである。Cora の苦悩を理解し共感できたとしても、Natty Bumpo は、Cora を悪から解放し魂の負っている傷を癒し人間性を回復させることができないのである。悪に蝕まれた Cora の人間性を回復させるには、人間の力を越えた存在が必要とされているのである。こうして、Uncas の登場が予想されているのである。

Uncas は、メシヤなのである。⁽⁷⁾ 彼のメシヤ性は、物語の前半部で宗教的な意味を与えられた自然との係わりで描かれている。彼の完璧な肉体・音楽的な声・鹿のような躍動的な行動力は、宗教的な意味を与えられた自然の完全さ・美しさ・漲る生命力を体現しているのである。Cora は、第 6 章冒頭で初めて均整の取れた Uncas の姿を見るのである。彼女が Uncas から受けた印象は、Cora と Duncan の会話を通して示されている。

Duncan は、“an unblemished specimen of the noblest proportions of man” (53) と描かれた Uncas を見て次の様にいう。

Let us then hope, that this Mohican may not disappoint our wishes, but prove, what his looks assert him to be, a brave and constant friend. (53)

Duncan は、自然人 Uncas が人を裏切らない友であることを期待するのだ。彼は、Uncas の善意を期待しているのだ。黒人に偏見を持つ Duncan が Uncas を称えるのを聞いて、Cora は、Duncan に次の様にいう。

Now Major Heyward speaks, as Major Heyward should. . . who, that looks at this creature of nature, remembers the shades of his skin! (53)

Cora は、Duncan を当てこすりながら Uncas を人種的な特徴で見るべきでなく彼の人間性で判断するべきだと主張するのである。Cora は、暗い顔をした Magua を悪の化身と見抜いたと同じように完璧な姿をした Uncas をメシヤと直感的に理解するのである。彼女は、Uncas が宗教的な意味を与えられた自然の完全さ・美しさそして漲る生命力を示す人であることを理解するのである。こうして、Cora は、彼女を捉えている絶望感を理解し苦悩を共感してくれることを Uncas に期待するのである。

メシヤ Uncas は、悪に蝕まれている Cora の絶望感を理解し彼女の苦悩に共感するのである。Uncas の Cora に対する態度に注目してみる。Cooper は、Uncas が Alice と Cora に親切にする様子を次のように描いている。

. . . while he tendered to Alice the gourd of sweet water, and the venison in a trencher, neatly carved from the knot of the peppergae, with sufficient

courtesy, in performing the same offices to her sister, his dark eye lingered on her rich, speaking countenance. (56)

Uncas は、Alice と Cora のため心を尽くして仕えているのだ。しかし、彼の接し方には、微妙な違いもみられるのである。Uncas は、悪を知らない Alice より悪に蝕まれ苦悩している Cora にじっと目を注いでいる。彼は、Cora の黒髪の背後に潜んでいる悪の化身 Magua の暗い姿を見抜いているのだ。Cora のものいいたげな顔を見つめる Uncas は、悪に捉えられ人間性を蝕まれている Cora の苦悩を理解しているのだ。

Cora の苦悩を理解する Uncas は、彼女を悪の化身 Magua から解放しようとする。Magua が William Henry 砦の陥落直後に Cora を連れ去ると、Uncas は、必死になって行方を捜し彼女を Magua から取り返そうとする。しかし、Uncas は、Cora を Magua から取り返すことができないのである。第30章の Tamenund の裁判の場面に注目してみる。Delaware 族の族長である Tamenund は、“wise and just Delaware” (293) として部族の枠を越えて尊敬されている。このような Tamenund が、Uncas に Magua が Cora に関して “a conqueror’s right” (312) をもっているかどうかを尋ねるのだ。Uncas は、Magua の Alice や Duncan そして Natty Bumppo に対する権利をことごとく否定するけれども Cora に関する Magua の権利を否定できないのである。そのため、Uncas は、Tamenund の前で沈黙してしまうのである。彼は、Magua の Cora に対する権利を認めているのだ。メシヤ Uncas は、悪の化身 Magua から Cora を解放できないのである。このことは、Cora が悪に捉えられ人

間性を蝕まれ絶望のまま死ぬことを意味することになるのだろうか。Coraの死は、人間性を喪失した絶望的な死なのだろうか。

Coraの死の意味を考えると見落としとしてはならない重要なことが一つある。それは、Coraの死と同時に描かれているUncasの死である。彼の死は、Uncasのメシヤ性と深く関わっているのである。Uncasのメシヤ性は、物語の後半部で超自然的な枠組みの中で描かれている。超自然的な枠組みの核心部にUncasの死が描かれている。しかも、Uncasの死に至る過程は、聖書に描かれたイエス・キリストの死に至る過程と重ね合わせて描かれている。物語の後半部に至ってUncasの死を読む読者がUncasの死にイエス・キリストの十字架の死を連想したとしても何の不思議もないのである。

Donald A. Ringeの示唆に富む指摘は、この点で重要な手がかりを与えてくれる。彼は、Cooperの時代の連想心理学の重要性を次のように述べている。

Actually, his [Cooper's] choice of material was probably the result of . . . the associationist psychology that underlay the aesthetic opinion of the times. To Cooper's contemporaries, the greatest value of a work of art lay in its suggestiveness, in its ability to arouse a suitable train of associations in the mind of the reader and to impart to him some fundamental truth. This process would obviously be most fruitful when author and reader were well acquainted with the material used to express the theme, and the theme would most likely be true if it were based upon direct obser-

vation and knowledge.⁽⁶⁾

Ringeは、作品のテーマを表現するために用いられる題材が作者と読者に共通する知識に基づいていれば読者の心の中に豊かな連想を生みその連想を通して真理が伝えられると述べている。イエス・キリストの物語は、誰でも知っている物語である。その上、Cooperが*The Last of the Mohicans*を書いた時期は、第2回目の「大覚醒運動」が盛んな時期でもあった。キリスト教の信仰が問い直され新しい信仰のあり方が模索されていた時期なのである。Ringeの指摘と作品の書かれた時代の状況を考え合わせると、メシヤUncasの死は、イエス・キリストの贖罪死を連想させると言えよう。Uncasの死は、悪の呪縛から人間を解放し魂の負っている傷を癒し人間性を回復させる象徴的な意味を与えられているのである。

象徴的な意味が与えられたUncasの死がCoraの死と同時に描かれていることは、彼女の死の意味を考える上で極めて重要である。Coraは、悪の化身Maguaに殺される直前に天を仰いで“I am thine! do with me as thou seest best!”(337)と神に祈りを捧げている。Uncasは、まるでCoraの祈りを聞きつけてそれに答えるようにして現れる。そして、彼はCoraを解放しようとして悪の化身Maguaに殺される。メシヤUncasの死は、Coraを悪から解放するための死である。Coraの死は、悪に蝕まれ人間性を喪失した絶望的な死なのではない。彼女は、最後に、悪から解放され魂の負っている傷を癒され荒廃させられた人間性を回復しているのである。彼女の死は、メシヤUncasの死によって救いを得た死なのである。Fiedlerは、CoraとUncasの死を民族間結婚に対するCooperの嫌悪感を表していると解釈してい

た。しかし、Uncas と Cora の死は、それぞれ、救いをもたらすための死と救いを得た死と解釈することができるのである。Cora の死は、悪の呪縛から解放され救いを得た死な

のである。Cooper が Cora の死を描いたのは、メシヤの死のみが人間を悪から解放し救いをもたらすことを強調したかったからであろう。

注

- (1) Leslie A. Fiedler *Love and Death in the American Novel* (Penguin Books, 1984) 207
- (2) James Fenimore Cooper *The Last of the Mohicans; A Narrative of 1775* (Albany: State University of New York Press, 1983)
本論中の作品からの引用は、すべてこの版による。なお、() ないの数字は、そのページを示す。
- (3) Howard Mumford Jones *History and The Contemporary: Essays in Nineteenth-Century Literature* (Madison: The University of Wisconsin Press, 1964) 72
- (4) Donald A. Ringe *The Pictoria Mode: Space and Time in the Arts of Bryant, Irving and Cooper* (Lexington: The University of Kentucky, 1971) 44
- (5) Thomas Philbrick "The Last of the Mohicans and the Sounds of Discord" *American Literature*, 43 (1971) 31
- (6) James Franklin Beard "Afterword," *The Last of the Mohicans* (New York: New American Library, 1962) 424
- (7) 拙論「時間の中心 Uncas—クーパーの描いたメシヤ像—」大阪女学院短期大学紀要第19号 (1988), 87-103
- (8) Donald A. Ringe *James Fenimore Cooper* (New Haven: College and University Press, 1962) 26-27